

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる	1-1-1-1	子育て支援課	こども園課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課
2 多様性を認め合う関係性づくりを進める	1-1-1-2	総合政策課	市民協働課	生涯学習課			
3 シビックプライドを育む機会をつくる	1-1-1-3	子育て支援課	こども園課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる	1-1-2-1	総合政策課	市民協働課				
2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む	1-1-2-2	市民協働課					

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する	1-2-1-1	市民協働課					
2 関係人口を創出・拡大する	1-2-1-2	市民協働課	経済振興課				

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する	1-2-2-1	市民協働課					
2 自然な出会い、交流の機会をつくる	1-2-2-2	市民協働課					

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-1	市民協働課	人権推進課				
2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-2	市民協働課	人権推進課				

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する	1-3-1-1	秘書広報課					
2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報を発信する	1-3-1-2	秘書広報課	総合政策課	市民協働課			

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う	2-1-1-1	経済振興課	市民協働課	総合政策課	学校教育課		
2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ	2-1-1-2	経済振興課	総合政策課	学校教育課			
3 市内企業への就職を推進する取組を支援する	2-1-1-3	経済振興課					

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う	2-1-2-1	経済振興課					
2 起業しやすい環境をつくる	2-1-2-2	経済振興課	市民協働課				

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる	2-1-3-1	経済振興課	こども園課	学校教育課	高年福祉課		
2 多様な働き方を推進する	2-1-3-2	経済振興課					

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する	2-2-1-1	観光交流課					
2 観光地としての魅力を発信する	2-2-1-2	観光交流課					

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する	2-2-2-1	観光交流課					
2 滞在型観光を推進する	2-2-2-2	観光交流課					
3 観光受け入れ体制を強化する	2-2-2-3	観光交流課					
4 観光推進体制を強化する	2-2-2-4	観光交流課					

◎インバウンド観光の推進

1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う	2-2-3-1	観光交流課					
-------------------------	---------	-------	--	--	--	--	--

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する	2-3-1-1	農林振興課					
2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする	2-3-1-2	農林振興課					

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する	2-3-2-1	農林振興課					
2 農産物の高付加価値化を図る	2-3-2-2	農林振興課					

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する	2-3-3-1	農林振興課					
2 新技術の導入検討を行う	2-3-3-2	農林振興課					

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する	2-3-4-1	農林振興課					
2 森林が持つ公益的機能の増進を図る	2-3-4-2	農林振興課					

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する	3-1-1-1	市民協働課						
2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する	3-1-1-2	市民協働課						

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる	3-2-1-1	社会福祉課	高年福祉課	地域包括支援センター				
2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる	3-2-1-2	社会福祉課	高年福祉課	地域包括支援センター				

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する	3-2-2-1	人権推進課						
2 まちの情報を在住外国人に伝える	3-2-2-2	人権推進課						
3 在住外国人と地域の人とのつながりをつくる	3-2-2-3	人権推進課						

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

1 健幸づくりへの意識の向上を図る	3-2-3-1	健幸づくり推進課						
2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する	3-2-3-2	健幸づくり推進課	高年福祉課	地域包括支援センター				

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する	3-3-1-1	市民協働課	学校教育課	経済振興課				
2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する	3-3-1-2	総合政策課	観光交流課					

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する	3-3-2-1	都市政策課						
2 新たな移動手段の導入・検討を進める	3-3-2-2	都市政策課						

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする	3-3-3-1	総合政策課						
2 公共施設の持続可能な運営を行う	3-3-3-2	総合政策課						

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する	3-3-4-1	市民課	文化財課	農林振興課	観光交流課			
-----------------------------------	---------	-----	------	-------	-------	--	--	--

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 子どもから大人まで多様な人や地域が互いにつながる場をつくる L ①家庭や地域・学校などで自己肯定感を育む言葉かけ L ②地域や学校などで多様な人との対話の場づくり L ③子どもから大人までが体験・挑戦する機会づくり 2 自分の考えが認められたり、反映されたりする場をつくる L ④地域や学校などで考えを発表・発信する機会づくり L ⑤好きなこと・得意なことを地域や学校で発揮できる機会づくり
--

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
子育て支援課	子育て学習センターで、子育て世代同士のグループが活動を主体的に企画・実施することができるよう支援を行っている	グループ活動の主体的な活動を支援することが、体験・挑戦する機会の創出に一定の効果があると捉えている。一方、参加者が固定する傾向がみられる。	引き続き、子育て世代の主体的な活動を支援するとともに、子育て世代以外の人も参加もしやすい場づくりを進める。
こども園課	在園中の異年齢児活動を通じて、主体的に活動できる教育・保育を実施している。	目標達成に向けた基礎づくり（幼児教育）はできている。	園の研究テーマに「たのしいな、笑顔でつながる友達と遊び」を設定し、自分も他者も大切にしながら、生き生きと過ごす姿を目指す。
学校教育課	自然体験、職場体験活動や地域行事への参加、伝統・文化・芸能体験など様々な体験教育に取り組んでいる。	自然体験、職場体験活動や農業体験、伝統・文化・芸能体験など様々な体験活動に取り組んだ。	引き続き、体験活動を充実させ、すべての児童生徒が達成感や成功体験等を得ながら学びへの意欲や自信につなげていく取組を進める。
総合政策課	市内県立高校と連携し、高校の授業に地域人材を講師として招聘し、対話等をおして主体的な学びを展開している。商品開発など実践的な学びにもつながっている。	子どもから大人まで多様な学びの場が充実していると感じている市民の割合は増加傾向にあるものの低い状況が続いており（市民アンケート結果）、KPIの市民の愛着や誇り持つ市民の割合にも影響していると考えられる。	高校生の多くが地域とつながることができるよう学校の授業を中心に展開してきたが、子どもの頃から地域行事の企画にも加わるなど、子どもから大人までが参画できる場づくりを行う。
市民協働課	地域自治協議会が実施する活動において、子どもを対象とした取り組みを実施している。	地域活動を実施されているが、目標値を下回っている。	地域コミュニティ活動において、子どもが関わる活動や世代間交流等を展開できる支援を継続する。
生涯学習課	市民講座受講後の継続した学びの場として、自主的に活動する自主運営講座・同好会等団体を市民講座の参加者募集時や受講後に紹介するなど情報発信を行っている。	自主運営講座・同好会活動の団体は増減はあるもの徐々に定着が図られているが、高齢化により退会となる団体もあり、後継者の育成に向けた取組を強化することが必要である。	継続した学びの場となるよう、自主運営講座・同好会の活動内容を工夫しながら情報発信し参加を促していくとともに、生涯学習人財バンク制度の利用促進を図り、地域の人財発掘や育成につなげていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

2 多様性を認め合う関係性づくりを進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域とつながり、知り、関わる機会をつくる

- └ ⑥誰もが集い、つながり、多様な価値を発信する場づくり
- └ ⑦テーマ・分野ごとに気軽に集い、つながる場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	あさご未来会議の開催、若者に限定した対話を実施等、気軽に集え、つながることのできる場を開催したほか、「みんなの合言葉」のLINEスタンプ等により、互いのアクションを応援し合える雰囲気の醸成を図った。	あさご未来会議の開催、若者に限定した対話を実施するなど、誰もが気軽に集え、つながる場づくりを行ったが、多様な市民ニーズに対応した多様な学びやつながる場づくりが必要。	新たな対話手法やオンラインプラットフォーム等を活用し、子どもから大人まで多様な市民が参加しやすい対話の場づくりを進め、市民一人一人の「やりたい（Will）」を地域活動と結び付け、市民参画の促進や地域への愛着の醸成を図る。
市民協働課	各地域自治協議会の取組状況を会長事務局長会議などで共有することにより、どうすれば幅広い市民が楽しみながら地域活動に参加できるかなどについて研究した。	地域活動を実施されているが、目標値を下回っている。自らの知識や経験を活かせる場の提供が必要。	多様な方が「やりたい」を大切に楽しみながら主体的に参加できる仕組みづくりに対する支援を継続する。
生涯学習課	誰もが自分の興味関心のあることを活かすことができる多様な学びの場として、じっくり学ぶ「定期コース」、少ない回数でチャレンジできる「トライコース」の2コースにより市民講座を開設している。	市民講座等への参加者が固定化していることや高齢化の傾向が見受けられることから、青壮年層の学びのニーズに応じた取組を企画検討する必要がある。	各生涯学習センター間で連携しながら、幅広い年齢層の学びのニーズに対応した魅力ある市民講座等を企画検討し、多様な学びの場の充実を図っていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

3 シビックプライドを育む機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 多様な人が集う機会をつくる ⑧地域や学校などで、多様な人との対話の場・体験の機会づくり ⑨学校と地域をつなぐコーディネート（学校と地域の連携） ⑩区・地域自治協議会などの地域行事への参加促進 ⑪子どもから大人までが地域行事などで役割を持つ 2 家族のつながりを大切にする ⑫家族と過ごす時間を持つ	
---	--

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
子育て支援課	子育て学習センターでの事業の一環として、子育て世代同士のグループ活動を推進、支援するほか、地域住民との交流を図る事業を展開し、つながりづくりを進めている。	子育て世代をはじめ、こどもと地域住民との交流の機会を設けていることから、つながる場づくりを創出することにより、地域愛の醸成に繋がっていると考える。	引き続き、地域と連携した取組を充実させ、子育てを通じた地域交流を推進する。
こども園課	こども園評議員会を各園で開催し、地域の方や保護者と意見交換を行い、地域に根付いた園運営につなげている。	地域と連携した園活動が出来ている。	地域の方との触れ合いの機会や地域の探索などにより、地域愛の醸成を図っていく。
学校教育課	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、ふるさと愛の醸成を図っている。	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、郷土愛の向上を図った。	引き続き、地域との連携を強化し、地域人材を活用した特色ある学校づくり事業に取り組み、ふるさととの豊かな自然や伝統文化、人々と触れ合う機会をつくっていく。
総合政策課	市内県立高校に地域コーディネーターを配置し、地域人材との対話や地域での実践的な学びとなる授業を行うことで、高校生が朝来市の魅力を感じる機会となっている。	市内県立高校における取組は定着しつつあるものの、市外高校に通う高校生が多様な人や地域とつながる機会が少ないことが課題である。	市内在住の高校生が市民対話等に参画できるよう、所属する高校等と連携を図りながら参加しやすい場づくりを進める。また、市民対話の場等に高校生が参画できるよう移動手段にも配慮して場づくりを行う。
市民協働課	各地域自治協議会の取組状況を共有することにより、どうすれば幅広い市民が楽しみながら地域活動に参加できるかなどについて研究した。	地域活動も徐々に回復しているが、目標値を下回っている。自らの知識や経験を活かせる場の提供が必要。	多様な方が「やりたい」を大切に楽しみながら主体的に参加できる仕組みづくりに対する支援を継続する。
生涯学習課	地域の人材や資源を活用し、地域全体でこどもたちの学びの場を提供する場として、各地域自治協議会による「地域と学校の連携・協働体制推進事業」の取組に対し支援している。	全小中学校で小学生を対象に地域学校協働活動の取組を進めることで、住んでいる地域に愛着や誇りを持つ市民の割合を増やしながら、朝来市に住み続けたいと思う市民の割合を上げることが必要である。	全地域自治協議会での活動機会の拡充や活動内容の充実に向けて各地域自治協議会と連携しながら、「地域と学校の連携・協働体制推進事業」の取組を継続して支援する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 多様な人がつながる場をつくる

└ ①地域やテーマ別など多様な対話の場づくり

2 参加しやすい場をつくる

└ ②誰もが参加できる場づくり（年齢・性別・開催時間など）

└ ③多様な手法によるつながる場の情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	若者を対象とした対話を開催するなど誰もが参加できる場づくりに取り組んだ。また、Instagram発信支援講座等を開催し、地域自治協議会のSNS等の情報発信力を高めるとともに、市民活動への参画者を増やす場づくりを実施してきた。	地域自治協議会を中心とした様々な切り口による学びの場は、新たな参画者が広がるきっかけにはなっている。それぞれの部署が情報を共有しながら、学びの場から活動につながる機会づくりを多くつくる必要がある。	新たな対話手法のオンラインプラットフォーム等を活用した対話の場づくりにより、時間等の制約に関わらず参画できる仕組みを構築するとともに、対話の人数規模やテーマなども考慮し、参画しやすい工夫を行う。
市民協働課	テーマ別の活動に取り組めるよう情報共有を行った。各地域自治協議会の広報やホームページの取組状況を共有することにより、効果的な情報発信の方法について研究した。	地域活動も徐々に回復しているが、目標値を下回っている。	テーマ型のコミュニティの活動について、これまでの枠組みにとらわれることなく関わりたい方が参画しやすい仕組みづくりを支援する。効果的な情報発信の方法について、情報が共有できる場を設定するなどの支援を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む

■目標に向けたアクション体系

1 地域リーダーを育む

- └ ④地域リーダー等の研修・講座の開催
- └ ⑤若者が主体となって活躍できる場づくり
- └ ⑥区・地域自治協議会等での次世代リーダーの育成・継承

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	各地域自治協議会の取組状況の情報共有や地域担当職員との意見交換、3市連携としてまちづくり部会が実施する研修への参加など地域におけるリーダーの育成に取り組んだ。	地域活動も徐々に回復しているが、目標値を下回っている。	地域自治協議会の事務局を中心に地域のコーディネーター育成に対する支援を継続する。また、これまで地域活動に関りが持ちにくかった若者の視点や意見を運営に反映できるような支援を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 移住・定住推進に向けた仕組をつくる

- └ ①空き家バンク制度の充実
- └ ②あさご暮らし体験住宅の活用
- └ ③移住サポーターの取組の充実
- └ ④あさご暮らしの魅力の発信

2 地域の主体的な取組を推進する

- └ ⑤体験会の開催等の移住推進に向けた取組
- └ ⑥空き家管理・清掃等空き家バンクと連携した取組
- └ ⑦あさご暮らしの魅力の発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・地域や移住サポーター等と連携して、現地体験イベントの実施やお試し住宅、空き家バンクの運営に取り組んでいる。 ・兵庫県や近隣市町と連携して、都市部での移住フェア出展等、情報発信に取り組んでいる。	・住宅取得や空家活用に対する需要が継続しているが、移住者数は横ばいである。 ・兵庫県に特化した移住フェアへの出展に重点を置いたことから、「体験・移住交流プログラム件数」と「令和7年度の移住相談件数」はやや増加した。	・対面型のイベント出展や実施に加え、オンライン相談も積極的に取り入れる。 ・兵庫県や近隣市町と連携し、規模のメリットを生かした効果的な情報発信に取り組む。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

2 関係人口を創出・拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 地域を知り、つながる機会をつくる

- └ ⑧体験会や対話の場など地域・人・活動の魅力を伝える場づくり
- └ ⑨朝来市出身者等とSNSなどをとおしてつながる仕組みづくり
- └ ⑩大学生等との対話の場づくり
- └ ⑪多様な人が参加できる地域活動や地域の魅力の発信

2 地域の活動を応援する仕組みをつくる

- └ ⑫ふるさと納税を活用した体験・交流プログラムづくり
- └ ⑬企業寄付金などを活用した基金の検討

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・体験住宅や空き家バンクを二地域居住的な利用にも活用いただいている。	関係人口から定住につながった実績もあり、移住者数の増加に一定の効果があるといえる。	ふるさと住民登録や二地域居住などについて、国の動向に注目するとともに、事例研究を行う。
経済振興課	牛肉やお米、岩津ねぎ等の市内特産品に加え、温泉施設、ゴルフ場やグランピング施設など、本市の自然を満喫できるアクティビティ型の返礼品の追加に努め、ふるさと納税額の増額に加え、食だけでない本市の魅力発信に注力している。	体験型返礼品として、アクティビティやグランピング施設、宿泊施設などのコンテンツは充実してきており、申込みもいづれか入っている。現地決済型ふるさと納税の仕組みも活用している。	体験型返礼品は一定数のラインナップがあるものの、食品の返礼品への申込が大半を占めており、体験型返礼品への申込は多くない。したがって都市部で開催されるふるさと納税イベントなどの機会を活かして寄附者との交流を深め、関係人口の創出を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する

■目標に向けたアクション体系

- 1 結婚を希望する人が出会う機会をつくる
 - └ ①婚活イベントなど結婚を希望する人の出会いの場づくり
- 2 結婚を希望する人をつなげる仕組みを充実させる
 - └ ②婚活事業の実施主体間の情報共有
 - └ ③婚活イベントや支援の仕組みなどの広報の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・令和5年度までは山東支所の事業で、出会いの場創出やコミュニケーション能力の向上に資する機会の提供を行った。 ・令和6年度は市主催で100人規模の大規模婚活イベントを実施したが、令和7年度は人数を40人規模にし、交流に多くの時間を取り、マッチング率を重視した。 ・出会いの場づくりを目的とした民間団体の事業に助成金を交付した。	・婚活イベントは継続的に実施しており、一定の参加者数があるものの、婚姻数が年々減少している。	・参加者数の確保に加え、個々のマッチングに係る支援にも取り組む必要がある。 ・より効果的な事業内容について、兵庫県や関係団体と連携して事業を実施するほか、先進事例の研究を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

2 自然な出会い、交流の機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 趣味やスポーツのつながりから出会う機会をつくる

- └ ④趣味・テーマごとの対話の場づくり
- └ ⑤レクリエーションスポーツ大会の開催

2 仕事のつながりから出会う機会をつくる

- └ ⑥職場間交流や異業種交流などの交流の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・令和5年度までは山東支所の事業で、出会いの場創出やコミュニケーション能力の向上に資する機会の提供を行った。 ・令和6年度は市主催で100人規模の大規模婚活イベントを実施したが、令和7年度は人数を40人規模にし、交流に多くの時間を取り、マッチング率を重視した。 ・出会いの場づくりを目的とした民間団体の事業に助成金を交付した。	・婚活イベントは継続的に実施しており、一定の参加者数があるものの、婚姻数が年々減少している。	・参加者数の確保に加え、個々のマッチングに係る支援にも取り組む必要がある。 ・より効果的な事業内容について、兵庫県や関係団体と連携して事業を実施するほか、先進事例の研究を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 地域情報を把握する

- └ ①区・地域自治協議会等の組織や行事の把握
- └ ②暮らしに関する情報の把握
- └ ③地域の個人・団体・グループ等の活動の把握
- └ ④地域の個人・団体・グループ等の活動に参加する仕組みの把握

2 移住希望者等へ地域情報を発信する

- └ ⑤多様な媒体を活用した発信
- └ ⑥ターゲットやテーマを絞った発信

3 地域で移住推進・受け入れに対する機運を高める

- └ ⑦移住者等とマッチングするための地域ニーズの把握・共有
- └ ⑧在住外国人受入れの出前講座の開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・空き家バンクやお試し住宅を利用して居住する場合は、必ず地区面談を実施し、地域情報を収集いただけるようにしている。 ・空き家バンクの見学者の現地案内、移住定住に関する相談対応を実施している。	・移住前に地域情報を収集する機会を設けることは、ミスマッチを防ぐ役割を果たしている。	・引き続き地域と連携し、移住後のトラブルやミスマッチを防ぐ取り組みを継続する。
人権推進課	・ともにつくる多文化共生社会として、学校、地域、民協などに出前講座を実施	あさご日本語教室について、外国人を雇用する事業所や外国人市民のニーズが多岐にわたることから課題も多くなっている。	朝来市連合国際交流協会等の団体や地域と連携し、あさご日本語教室等を通じて、外国人市民と地域との交流の場づくりを進める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 移住者や在住外国人と地域住民がつながる機会をつくる

- └ ⑨移住者や在住外国人の情報の把握・地域住民相互の共有
- └ ⑩移住者や在住外国人と地域住民との対話の場づくり
- └ ⑪移住者や在住外国人と地域住民との交流の場づくり
- └ ⑫移住者や在住外国人と地域をつなぐコーディネーターの育成
- └ ⑬移住者や在住外国人の困りごとなどが集まり解決するシンクタンクの役割を地域でつくる

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	・空き家バンクやお試し住宅を利用して居住する場合は、必ず地区面談を実施し、地域情報を収集いただけるようにしている。 ・空き家バンクの見学者の現地案内、移住定住に関する相談対応を実施している。	・移住前に地域情報を収集する機会を設けることは、ミスマッチを防ぐ役割を果たしている。	・引き続き地域と連携し、移住後のトラブルやミスマッチを防ぐ取り組みを継続する。
人権推進課	・日本語教室の開催 ・多文化共生をテーマにあさご未来会議を開催 ・学校、地域、民協などを対象に出前講座を実施	外国人市民人の増加に伴い、日本語教室のニーズが増加している。 ボランティア支援者等の人材確保・育成が必要になっている。	・外国人市民のニーズを把握し民間団体による日本語教室と連携し、様々な方法で学習機会を提供できる取組を進める必要がある。 ・NPO法人与連携し、外国人市民向けの相談業務等委託を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する

■目標に向けたアクション体系

1 欲しい情報がすぐにキャッチできるように発信する

- Ｌ ①検索しやすい情報の発信
- Ｌ ②ウェブサイト閲覧者の情報を把握・分析し発信方法を改善
- Ｌ ③誰にでも分かりやすい広報媒体の作成

2 届けたい人に届くように情報を発信する

- Ｌ ④年齢に応じた多様な情報発信
- Ｌ ⑤多言語対応した情報発信
- Ｌ ⑥ターゲットやテーマを絞ってSNSなどを活用した情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	広報誌は、読む傾向から見る傾向へと移行していることから、デザインの見直しを都度行い、読み手に伝わる広報誌の作成を心掛けた。 職員が事業実施のみに力を注ぎ、情報発信が疎かになっている状況を鑑み、職員に対して、情報発信の重要性を意識付ける「情報発信研修」を実施した。 市の情報発信に関する市民の需要を調査するため市民アンケート調査を実施した。	広報誌においては、左記の取り組みを進めたことにより、県広報コンクール入選など外部評価を得られた。このことが、市民の認知度・注目度に繋がり市民意識調査では「伝えたいところに届く戦略的な情報発信の推進が図られていると感じる市民の割合」が増加した要因の一つと考えられる。	市民アンケート調査によると、若い世代の多くが情報取得手段にSNSを利用。中でもインスタグラムの利用が多く、視覚的に情報を取得する傾向にあることから、Instagramによる情報発信を検討し、若者世代が市政情報に触れる機会を増やす。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 コミュニケーションにより情報を発信する L ⑦多様な人との対話の場づくり L ⑧テーマごとの集いの場・対話の場づくり L ⑨人の動き・考えなどを伝える 2 多様な媒体により情報を発信する L ⑩情報発信手法を学ぶ講座開催 L ⑪情報リテラシーを学ぶ機会づくり L ⑫多様な主体が現在進行形の動きを発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	市の重要施策を市民に説明するまちづくりフォーラムを自治協議会単位で実施したほか、地域住民と市長が近い距離で地域課題等について意見交換を行うふれあい市長室を全区で実施している。 令和7年度からは中学生とのふれあいトークを実施し、若い世代との意見交換も行っている。	市民意識調査の「対話による開かれた広聴の充実が図られていると感じる市民の割合」が増加しているのは、左記のとおり、地域や様々な世代との意見交換の機会が定着してきていることも要因の一つと考える。	従来の集会形式のフォーラム等に加え、パブリックミーティングやパブリックコメントの実施を促し、市民が自らの声が市政に反映されていると感じる機会の増加を図る。
総合政策課	市民によるSNS等の情報発信の定着を図るために、情報発信技術向上講座を開催し、Instagram等のSNSを活用した地域自治協議会等の情報発信力を高めるとともに、市民活動への参加を促す場づくりを行った。	地域自治協議会では、InstagramなどのSNSを活用した情報発信が進みつつある一方で、情報の到達範囲が限定的であり、市民の市民参画の促進や移住希望者への効果的な情報発信には十分につながっていない。	地域自治協議会への情報発信支援を継続するとともに、市民一人ひとりが地域の魅力や日常の活動を主体的に発信し、その発信を通じて地域への関心や愛着を深め、市民参画につながる取組を推進する。
市民協働課	SNSを活用した地域の情報発信手法について研修を開催するとともに、効果的な情報発信の手法について研究した。	現時点で目標値に達成しているので引き続き事業を展開していく。	SNSを活用した地域の情報発信手法についての研修の実施するなど、引き続き効果的な情報発信について研究する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う

■目標に向けたアクション体系

1 多様な手法により市内企業の情報を発信する

- └ ①広報紙やウェブサイトを活用した市民や親世代向けの情報発信
- └ ②SNSなどを活用した高校生・大学生・移住者向けの情報発信
- └ ③大学生・移住者向けの企業説明会などの対面型の情報発信

2 市内企業の魅力を伝える場をつくる

- └ ④市民や親世代へ伝える場づくり
- └ ⑤小・中学生へ伝える場づくり（トライやるウィークなど）
- └ ⑥高校生へ伝える場づくり（対話の場、しごとゼミなど）
- └ ⑦大学生へ伝える場づくり（対話の場など）
- └ ⑧移住者やUターン者などへ伝える場づくり（対話の場など）

3 企業と就職希望者とのマッチングを推進する

- └ ⑨就職希望者への伴走型支援（ジョブサバあさごなど）

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内高等学校においては、キャリア教育の一環として、しごとゼミに対する期待が高く、カリキュラムとして定着している。	コロナ禍以降、概ね25事業所程度の協力で、しごとゼミを実施しているが、生徒のキャリア教育と市内事業所の人材確保に資する規模として、現状の事業は、適正であると考えているところ。	生徒数が減少していく中、学校と企業、双方に資する事業として、適切な規模感をもって実施したい。
市民協働課	・市が実施する就業支援施策について、移住希望者に情報発信している。 ・移住イベントにおいて、就業支援施策についても周知をしている。	・移住後の就業先について不安を持つ方は多く、市の支援施策をPRすることは効果的である。	・移住希望者から就業に係る相談があれば、経済振興課等と横断的に連携し、個別の支援を継続的に実施する。
総合政策課	市内高校でキャリアトークカフェを開催しつつ、市外にも生徒が通学している状況も踏まえ、養父市内の高校においてもキャリアトークカフェ事業を開催した。	キャリアトークカフェ等をきっかけに市内企業等への就職につながることもあり、本事業の継続は必要である。養父市と連携し八鹿高校、但馬農業高校でも開催することで市外へ通学する生徒へ魅力を伝える場づくりを行うことができた。	朝来市から八鹿高校、但馬農業高校に通学する生徒数が多いことを踏まえて、養父市と連携し引き続き養父市内でのキャリアトークカフェ事業を展開する。
学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動をとおり、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育む取組を推進している。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ

■目標に向けたアクション体系

1 市内で活躍する多様な人との出会いの場をつくる L ⑩学校での出会いの場づくり（キャリアトークカフェなど）	
2 市内企業の仕事の魅力を体験する場をつくる L ⑪中学生が体験する場づくり（トライやるウィークなど） L ⑫高校生・大学生等が体験する場づくり（インターンシップなど）	

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所においては、特に若手従業員の確保に困難を来しており、本事業に対する期待感是非常に強い。事業所の前向きな取組みにより、しごとゼミの事業効果の一層の向上を見込むことができ、来年度以降も、事業所や高等学校の意向も踏まえながら、効果的な事業実施に繋げたい。	自然減と社会減に伴う生産年齢人口の減少は、市内事業所の人手不足に拍車をかけており、人材の確保は官民双方の喫緊の課題である。市内の魅力的な事業所の気づきということ踏まえると、現状の事業規模が適正であり、今後も学校、生徒と企業の調整をしつつ、丁寧な事業実施を図りたいと考えている。	多くの市内事業所が人手不足の状況にある中、特定の業種、事業所に偏ることなく、生徒のキャリア教育と、市内事業所の魅力発信に努めたい。
総合政策課	高校生のキャリアトークカフェやしごとゼミを経て、具体的に働くイメージを得るため、実践的なインターンシップの受入を行った。また、芸術文化観光専門職大学の授業の一つとして市のまちづくり等に関する業務を体験する実習を受け入れている。	和田山高校や連携している大学などが実施するインターンシップに応じた受入に留まっており、インターンシップを希望する高校生や大学生が所属する学校に関係なく体験できる機会がない。	インターンシップを希望する生徒や学生に対しては、誰でもインターンシップを体験できる機会を検討するとともに、引き続き高校や大学等と連携しながら、実習の受入等を実施していく。
学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育む取組みを推進している。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

3 市内企業への就職を推進する取組を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 就職を促す取組を行う企業を支援する

└ ⑬若手社員の奨学金返還を支援する市内企業への財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	若手従業員の確保に苦慮する市内事業所において、負担軽減制度を設けることが、採用時の福利厚生面におけるPRや、離職率の低下に繋がることを継続的に周知する。	人口減少や都市部における旺盛な採用活動により、地方の事業所は依然として人材確保に苦慮している。そのような中、市内事業所における新卒就業者数は前年度水準を維持している。	当該事業を実施する事業者を広く周知するため、就活サポートブックや、二十歳の集いでのPR、SNS、商工会Lineでの発信に努めた。令和6年度から、県制度に準じて対象年齢、勤続年数の緩和を行い、利用促進を図っている。令和8年度からは個人向けの奨学金返還支援制度も創設し、市内企業への就職を推進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う

■目標に向けたアクション体系

1 後継者育成・事業承継の支援を行う

- └ ①商工会や金融機関と連携した支援の展開
- └ ②後継者育成・事業承継マインドを醸成する対話・学びの場づくり

2 設備拡大の支援を行う

- └ ③情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ④設備拡大のための財政支援
- └ ⑤市内企業の規模拡張・企業誘致に向けた整備検討等

3 新分野進出の支援を行う

- └ ⑥情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ⑦新分野進出のための財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	あさご元気産業創生センターにおいて、市内企業からの様々な相談の対応や補助を受けるために必要となる計画の策定支援を行いつつ、創業希望者に対して起業等の支援を行った。	コロナ禍においては、コロナ関連支援金の相談が多かったが、現在は起業に関する相談や設備投資に積極的な製造業からの相談等が増加している。	今後も市内企業からの相談対応や計画策定支援を行いつつ、起業等の支援を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

2 起業しやすい環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 起業マインドを育む機会をつくる

- └ ⑧起業の魅力の情報発信
- └ ⑨起業者との対話・交流の場づくり

2 起業を支援する

- └ ⑩起業セミナーの開催など学びの場づくり
- └ ⑪起業前から起業後まで切れ目ない伴走型支援
- └ ⑫起業を応援する財政支援
- └ ⑬コワーキングスペースやインキュベーション施設など活動拠点の提供

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	にぎわい創出支援事業等、各種補助事業や元気産業創生センター、市商工会との連携により、多様な事業者の起業に努めた。	コロナ禍において新規創業件数は低調に推移し、現在は回復傾向にあるものの、物価高騰等の影響もあり創業件数は伸び悩んでおり、コロナ前の水準までは戻っていない。	各種補助事業や相談支援機関との連携の下、起業後も継続して伴走型による適切な支援に努めたい。にぎわい創出補助金については、令和6年度から若者や移住者に対する補助上限の引き上げを行ったことからさらなる利用促進に努める。
市民協働課	・起業人財交流館には、令和4年度から3名の利用者が入居している。 ・利用者が市内に定着し事業継続できるよう、経済振興課等と連携した支援を行っている。	・起業経営に関する講座や利用者が主体となったイベント開催の拠点となっており、起業に関心がある方の交流拠点にもなっている。	・利用者が市内に定着し事業継続できるよう、経済振興課等と連携した支援を行っていく。 ・利用者支援や施設運営にあたっては、地域との連携も引き続き強化する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 若者が働きやすい環境をつくる ①労働時間など若者の働く価値観に応じた就業環境づくり ②働きながら資格や技術などが習得できる仕組みづくり 2 女性が働きやすい環境をつくる ③子育てしながらでも働きやすい企業の就業環境づくり ④女性が働きやすくするための市内企業の就業環境の発信 ⑤市内の保育環境の充実 3 高齢者が働きやすい環境をつくる ⑥再就職に向けた支援 ⑦シルバー人材センターと連携した高齢者の就業支援 4 外国人が働きやすい環境をつくる ⑧起業や地域と連携した生活支援を含めた受入れ体制づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所における人手不足感は強く、子育て中の女性と短時間、少日数で勤務できる市内事業所とのマッチングイベントを実施してきた。また、令和5年度以降、デジタルで仕事ができるスキルを身につけるための講座「朝来クリエイタースクール」を開催、これらの取組み等により本市における女性の就業率は県や全国の平均に比べ高く、さらに上昇傾向にある。	各種取組みや、こども園整備等による子育てしやすい環境により、市内の女性就業者比率は上昇傾向にある。更なる潜在労働力の掘り起こしのため、働く場だけでない多方面からのアプローチを継続して実施する必要がある。	今後、デジタル人材のニーズがますます高まることを踏まえ、引き続きデジタル人材の育成支援事業を実施する。
こども園課	公立こども園7園、私立保育所2園、私立こども園4園を開設している。	公立・私立こども園運営・私立保育所運営は、女性就業者増の受け皿となっている。	引き続き、同様の事業を実施する。また、運営に必要となる人材の確保に努める。
学校教育課	公立学童クラブ9施設、私立学童クラブ3施設を開設している。	公立・私立学童クラブ運営は、女性就業者の増の受け皿になっている。	引き続き、同様の事業を実施する。また、運営に必要となる人材の確保に努める。
高年福祉課	シルバー人材センターへの補助を実施したほか、活動内容を掲載した広報誌の全戸配布を支援し、高齢者の就業機会等について広報を行った。	広報誌の全戸配布を支援した。また、ハローワークでの定期的な出張説明など地域に踏み込んだ広報活動に注力されたことにより、会員数は前年度より41名増加し、受託契約金額も前年度比100.5%とわずかに増加するなど、高齢者に新たな就業に挑戦する機会を提供することができた。	元気な高齢者が地域社会の課題解決の担い手となって活躍するシルバー事業を支援する観点から、引き続き、シルバー人材センターへの補助を実施するほか、広報誌等の全戸配付を支援するなど、会員数及び就業機会の拡大に協力する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

2 多様な働き方を推進する

■目標に向けたアクション体系

- 1 企業の意識改革と多様な働き方ができる仕組みをつくる
 - └ ⑨短時間労働や副業（複業）などの仕組みづくりを支援
 - └ ⑩短時間労働や副業（複業）希望者と企業とのマッチング
- 2 市民の意識改革を行う
 - └ ⑪多様な生き方・働き方があることを伝える情報発信
 - └ ⑫多様な生き方・働き方の魅力を伝える場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	子育て中の女性と短時間、少日数での勤務が可能な企業とのマッチングイベント、「お仕事大相談会」や、デジタルで仕事ができるスキルを身につけるための講座「朝来クリエイタースクール」を実施してきた。	マッチングイベント「お仕事大相談会」や「朝来クリエイタースクール」は、市内事業者、働きたい女性への関心も高く、一定の事業効果をあげている。	市内事業所、働きたい女性ともに、マッチングイベントへのニーズは高いことから、継続して実施するとともに、多様な生き方や働き方を提案する事業として、女性デジタル人材の育成支援事業「朝来クリエイタースクール」を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する

■目標に向けたアクション体系

1 体験型観光を推進する
└ ①歴史体験プログラムの開発・実施
└ ②自然体験プログラムの開発・実施
└ ③農業体験プログラムの開発・実施

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	既存の体験型素材集（掲載プログラム数31）及び関西万博を契機としたひょうごフィールドバビリオン認定プログラムの2件に加え、竹田城跡に関連したツアー（お月見イベント、冬季特別ツアー、ドローン撮影）3件が造成された。	新たな体験プログラムの造成が進んでいるものの、目標値の達成が難しい状況である。	引き続き、「あさごツーリズムビューロー」をはじめ、地域自治協議会や酒蔵など、多様な主体と連携を図り、新たな体験プログラムの検討など、新しいコンテンツの開発を進める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

2 観光地としての魅力を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な手段により情報を発信する

- └ ④ウェブサイト・SNSなどを活用した観光資源の発信
- └ ⑤観光キャンペーンを活用した情報発信
- └ ⑥テレビ等のメディアを活用した情報発信
- └ ⑦マーケティングを意識した観光プロモーションの展開
- └ ⑧映画・ドラマのロケ地誘致活動

2 複合的な情報発信を展開する

- └ ⑨観光資源をつなぐストーリーを活用した情報発信
- └ ⑩異分野を組み合わせた情報発信（食×歴史など）

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	ウェブサイト・SNS、テレビ等のロケ地を誘致・受入をし、二次波及効果によるPRにつなげた。SNSを活用した効果的な情報発信を行ったほか、JR姫路駅や淡路島での観光キャンペーンなども実施した。	各種メディアでの情報発信の回数は、インスタグラムなど多様な手段を活用した結果、目標値を大幅に超えている。	引き続き、ウェブサイト・SNSをはじめ、広域団体と連携した多言語サイトの活用など、多様な手段を活用して情報発信を行う。また、積極的に映画等のロケ地を誘致・受入をすることで、市のPRに繋げる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様なストーリーで地域資源をつなげる
└ ①モデルコースの設定、整備、情報発信
2 二次交通の充実を図る
└ ②天空バス・タクシーの活用推進
└ ③サイクリングの活用推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	広域連携により、新たに日本遺産構成文化財を巡る周遊コースや特典の設定を行い、広くPRした。 宿泊施設と連携したサイクリング観光を実施した。	着地型観光商品の販売促進など、観光消費額の増加に繋がる取組を行う必要がある。	引き続き、市内を周遊し観光消費を促すような商品の造成及び販売などを行う。 また、設定された日本遺産周遊コース等を活用するため、広域連携による情報発信や旅行商品としての販売を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

2 滞在型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 宿泊地としての魅力を創出する

- └ ④ライトアップ等による夜の魅力や早朝の魅力の創出
- └ ⑤民泊の推進支援

2 食の充実を図る

- └ ⑥地元食材にストーリーを付すことによる付加価値の向上
- └ ⑦但馬牛・岩津ねぎなど朝来市産の食材を生かしたメニュー拡大
- └ ⑧地酒の活用

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	山東町矢名瀬町の2軒の酒蔵の観光コンテンツ化に向けた検討を続け、インバウンド向けモニターツアーを実施した。 市内のグルメをPRするショート動画の配信を行った。 宿泊施設と連携し、宿泊者限定の竹田城跡冬季特別ツアーを実施した。	観光消費額の増加に向けて、宿泊を促す取組を行う必要がある。	引き続き、市内の滞在時間を増加させるために、夜間や冬季の魅力的なコンテンツ開発や宿泊を伴うツアーなど、朝来市特有の地域資源を活用した取組を実施するとともに、それらの広報を充実させる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

3 観光受け入れ体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 誰もが安心して訪れることができる環境をつくる

└ ⑨観光ユニバーサルデザインに配慮した取組

2 観光ガイドやおもてなし人材を充実・強化する

└ ⑩高校との連携など若い人材へのアプローチ

└ ⑪観光ガイド人材の確保・育成に向けた取組

└ ⑫市民のおもてなし力向上に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	竹田城跡でのユニバーサルツーリズムの実証実験を実施した。 竹田城跡ガイド養成講座を実施し、新たな人材の確保や育成に向けた取り組みを行い、観光客を受け入れる体制の強化を図った。	新たな観光ガイドの増員もあるものの、高齢化等による観光ガイドからの引退やガイド団体の休止により、全体としては増減があり、ガイド人材の大幅な増加は難しい。	引き続き、受入体制の強化や担い手の確保のため、新たな観光ガイド養成講座を実施し、市内中学校・高等学校などへも広報を行う。 また、兵庫県のユニバーサルツーリズムを推進している有識者とも連携しながら、引き続きユニバーサルツーリズムの導入の検討を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

4 観光推進体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 観光推進組織を充実・強化する

- └ ⑬観光協会の体制の強化
- └ ⑭観光関連団体相互、農林業や商工業等との連携の強化

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	令和2年度に朝来市観光協会を設立し、以降職員体制を強化することで様々な業務（朝来市版DMO推進、プロモーション事業、観光案内所管理運営等）を委託した。令和5年度から一般社団法人となった。令和7年度から「あさごツーリズムビューロー」へ名称変更された。	第2次観光基本計画のロードマップに基づき推進組織の強化を行い、推進体制を整えた。	令和6年度から第3次観光基本計画期間となり、法人化された朝来市観光協会は、観光地経営を実践する組織として、市や市内法人・団体等と連携し、観光商品の開発など様々な事業を進めていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎インバウンド観光の推進

1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う

■目標に向けたアクション体系

- 1 スムーズに受け入れるための環境を整備する
 - Ｌ ①多言語に対応した看板・パンフレットの作成
 - Ｌ ②多言語対応人材の発掘・活用
- 2 消費活動を促進する環境を整備する
 - Ｌ ③キャッシュレス化の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	多言語サイトの活用や海外への観光パンフレットの現地送付により、インバウンド向けのPRを展開した。観光案内所においてもキャッシュレス決済を導入した。2025年大阪・関西万博の機会を捉え、関係機関と連携し、ひょうごフィールドパビリオンの実施や多言語での情報発信サイトの活用、空港でのイベントなど、市へのインバウンド誘客を積極的に行った。	R2年以降、新型コロナウイルスの影響によりインバウンドの来訪者数は激減した。アフターコロナであるR5年度からは、インバウンドが戻ってきているが、目標達成は難しい。	引き続き、交流人口の拡大による経済循環活動の促進に向け、竹田城跡収受棟でのキャッシュレス決済導入等の様々な取り組みを実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する

■目標に向けたアクション体系

- 1 認定農業者など農林畜産業を生業とする人を育成する
 - └ ①経営能力向上に向けた支援
 - └ ②農林畜産業者間のネットワークづくり
- 2 新規就農者など新たに農林畜産業を生業にしようとする人を確保・育成する
 - └ ③就農希望者向けイベントの出展など農林畜産業の魅力の発信
 - └ ④農家とのマッチング等の研修・相談など自立支援体制の充実
 - └ ⑤子どもの頃から農林畜産体験など学びの機会の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	就農相談イベントへ出展し就農希望者及び研修制度を周知し新たな担い手の確保に務めた。 また、U I J ターン、地元就農希望者も対象にした研修制度を実施している。	研修を修了（早期修了者を含む）した者は、市内での新規就農者として営農を行っている。その大半の者が認定新規就農者として認定を受けており一定の効果があるが、目標人数には届いていない。	新たな研修制度を見直しが必要である。 研修制度だけでなく新たに確保する手段の構築が必要である。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする

■目標に向けたアクション体系

1 多様な関わり方を創出する

- └ ⑥女性などが短時間労働等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑦高齢者などが軽作業等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑧副業（複業）などで農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑨福祉と連携した農林畜産業の推進

2 新しい農業を支える仕組みをつくる

- └ ⑩経営規模拡大・安定に向けた法人化の推進
- └ ⑪CSA（地域支援型農業）導入に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	女性農業研修生も女性農業者グループに参加し、地域農業への参画、農業機械の講習会、イベント出展など積極的に活動した。	農村部や農業コミュニティにおいては、トイレや衛生設備の整備が不十分な地域が多く存在しています。特に女性にとっては、これらの施設の不備は深刻な問題となっており、女性農業者が増加しない原因のひとつと考えています。	農業研修生の確保、就農相談、体験等を上手く活用し、女性農業者の確保に努める。 ほ場環境の整備に対する支援制度等が必要である。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な販路を設ける
L ①仲介事業者を通さない直販の強化
L ②地産地消の取組の推進
L ③海外への販路開拓

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	・市内農業者グループによる関西圏又は関東圏への販路を開拓し所得向上に繋げている。 ・新技術導入研究と販路開拓を目的に「冷凍システム」を活用した物流システムの構築に支援している。	現在、テスト段階であるが、課題である農産物量の確保と長期保存による安定的な出荷体制が見込まれる。	・安定的な集荷体制や更なる販路拡大のため、農業者グループの支援が必要である。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

2 農産物の高付加価値化を図る

■目標に向けたアクション体系

1 競争力のある商品を開発する

- └ ④高校・大学・企業との連携などによる商品開発

2 情報発信力を強化する

- └ ⑤農畜産物や生産者の魅力の発信

3 既存農産物の地域ブランド力を向上する

- └ ⑥高校・大学・企業との連携などによる地域ブランド力の向上
- └ ⑦有機JAS、GAP、HACCP認証取得支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	農業者グループと企業等との連携により、新たな物流システムを試験中。また有機農業の発展した考え方であるBLOF理論の講習会、ほ場実証等を実施し、農産物の高付加価値化を推進した。	物流システムの構築に向け、支援が必要である。 有機栽培農作物の認知、普及が必要である。	講習会等による栽培技術の取得と向上を図り、収量と品質向上を確保できるように支援を行う。 オーガニックビレッジ宣言を機に市内での認知を深め、有機栽培の拡大を図り、特産物の高付加価値化を目指す。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 設備・機械導入の普及を推進する

- └ ①設備・機械導入による農作業環境の改善状況の周知
- └ ②設備・機械の導入支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	・農業経営スマート化促進事業や農業生産コスト低減緊急対策事業等を実施し、農業者に対する効果的な機械（設備）導入支援を行った。 ・RTKアンテナ（2基）を設置した。 ・地域計画に記載のある農業者への機械導入支援を行った。	・RTKアンテナの設置、機械のスマート化やコスト低減に資する機械の導入により、作業の効率化、労働時間の縮減、省力化に寄与している。	市内の農地管理、担い手確保、農産物の安定的効果的な生産を達成するため、今後も継続して事業を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

2 新技術の導入検討を行う

■目標に向けたアクション体系

1 大学・企業など研究機関と連携した取組を推進する
L ③生産量拡大に向けた研究
L ④農業者と連携した作業の負担軽減に向けた研究
L ⑤農業者と連携した低コスト化に向けた研究

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	生産量の増及び付加価値の高い農産物の生産を目指しBLOF理論講習会及び実証を行った。	現在、市内農業者がBLOF理論を実践しており、今後、有機農業取組者の増につながると思料する。	オーガニックビレッジ宣言、BLOF理論講習会等を開催することにより、有機農業の基盤を醸成していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 森林資源を活用する

- └ ①FSC取得認証など建築材としてのブランド化の推進
- └ ②ミツマタなど林床植物の商品化
- └ ③木質バイオマスの推進
- └ ④建築・加工品など木材の地産地消の推進

2 林業の担い手を確保する

- └ ⑤林業の魅力の発信
- └ ⑥林業フェアへの参加

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	森林環境譲与税を活用し、木質バイオマス発電所への木材の搬出支援、薪ストーブ等の設置促進、地域産材を使った木育用玩具の制作と新生児への配布を新規事業として実施した。	成果指標は達成しており、既存事業の継続により、更なる素材生産の推進を図るとともに、林業労働者の確保に向けた制度の新設等、未達の活動指標についても達成に向けた取り組みを進める。	林業従事者の社会保障制度掛金支援や小学生を対象とした林業事業体による森林環境教育、及びこども園への木製遊具の配布、市内事業者を活用して実施することで、子どもの頃から木材に触れ林業の魅力を発信することで林業の担い手の確保を推進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

2 森林が持つ公益的機能の増進を図る

■目標に向けたアクション体系

1 環境資源としての森林を守る取組を推進する
L ⑦広葉樹林化などの環境林の整備
L ⑧環境教育の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	手入れ不足の人工林の間伐整備（私有林整備）により、下層植生を呼び込み、多様性と多面的機能の向上を図っている。 また、自然学校での森林教育プログラムを実施した。	私有林整備面積は策定当初に比べて順調に増加している。	私有林整備については森林環境譲与税を活用し継続的に実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 地域住民の意見が反映される仕組みをつくる

- └ ①多様な主体による地域での対話の場づくり
- └ ②住民アンケート調査等による地域住民の意見の把握

2 多様な主体が参画する

- └ ③地域住民への地域情報の発信
- └ ④誰もが自分のことで参画可能な仕組みづくり
- └ ⑤ネット活用等による誰もが参画できる会議手法の導入

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	SNSを使った情報発信の手法等、多様な主体が参加できるこれからの地域づくりについて学ぶ機会を提供した。また、各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しをアドバイザーとともに支援してきた。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限があったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	SNSを活用した地域の情報発信手法についての研修の実施する。また、地域コミュニティをつなぐネットワークの構築について検討する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 地域の主体的な活動を支援する

- └ ⑥地域自治協議会等への必要に応じた伴走型支援
- └ ⑦アドバイザーの招へい
- └ ⑧多様な市民活動の活動促進支援
- └ ⑨市内の多様な主体や多様な活動をつなぐ対話の場づくり

2 地域づくりの学びの場をつくる

- └ ⑩地域自治協議会運営等の地域づくりの学びの場の開催
- └ ⑪地域リーダー育成に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	地域自治協議会等地域コミュニティへの伴走支援について、会計年度任用職員を配置するなど支援体制の構築を進めた。地域まちづくり計画の見直しを行う地域自治協議会に対して、必要に応じてアドバイザーを招聘し支援してきた。また、3市連携による地域自治協議会向けの研修の開催を行い、これからの地域づくりについて学ぶ機会を提供した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限があったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	引き続き地域自治協議会等地域コミュニティへの伴走支援体制の充実を図る。またアドバイザーの招聘が必要な場合は兵庫県と連携しながら支援を継続する。また、3市連携による地域自治協議会向けの研修の開催についても、継続して開催することにより地域づくりについて学ぶ機会を提供する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 属性・テーマの横断的なつながりをつくる L ①多様な人が集う複合的な地域の居場所づくり L ②誰もが自分のできることで役割を持つ L ③参加しやすいオープンな場づくり L ④地域内で声をかけ参加しやすい雰囲気づくり L ⑤多様な主体と連携した事業・場づくり	
2 属性・テーマごとなど多様なつながりをつくる L ⑥参加しやすい小さな単位の場づくり L ⑦短時間・子連れ参加など誰もが参加しやすい場づくり L ⑧地域の多様な集いの場などの情報発信 L ⑨多様性を認め合う地域の雰囲気づくり	

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	地域の福祉活動のキーパソンである民生委員・児童委員は、見守りや声掛け、集いの場の運営等地域のつながりづくりに努めている。 分野を問わず地域の活動を見える化した地域情報共有掲示板ためまっぶあさごの運用を開始し、地域活動への市民参加の促進を図っている。	民生委員・児童委員は、地域の見守り役として集う場などの運営を支援し地域での見守り体制づくりを行った。 ためまっぶあさごは、行政、地域活動団体等が情報を投稿することで、多種多様な情報発信を開始した。	引き続き、民生委員・児童委員活動の周知と共に、研修実施等による委員の活動支援を行う。 多様な主体と協働した情報発信による社会参加のきっかけづくりを進めるとともに、集いの場等の機会を創出する地域づくりを進めていく。
高年福祉課	老人福祉センターや介護予防施設等において各種団体が活動できる場として施設管理を実施した。	管轄する施設は、高齢者や市民で構成する各種団体等が利用している。 新型コロナの影響以降、利用が完全に戻ったわけではないが、昨年度から微増または横ばいと各施設とも一定の利用者がある。	各施設ともに老朽化が進んでいる状況だが、各施設・設備に関して必要に応じてメンテナンスを施すなど、引き続き各種団体に気持ちよく施設を利用いただくために、適切な管理を行う。
包括支援センター	あさごいきいき百歳体操や地域ミニデイ、ぶちサロン等の住民主体の通いの場について、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが伴走支援を行い、体制の拡充や新規グループ立ち上げを促進した。地域自治協議会が実施する元気アップいこいの場事業とも連携し、参加者の外出機会や運動機会の確保、地域のつながりづくりに取り組んだ。令和7年度末には、あさごいきいき百歳体操は93地区で実施され、住民主体の活動として一定の定着が見られた。	あさごいきいき百歳体操は、活動中止となった2地区を除き令和8年度は91地区で実施されている。ミニデイは目標87グループに対して79グループでの実施となり、目標未達の要因は、参加者や運営者の高齢化、担い手不足、活動継続に伴う負担感などであった。一方、既存の活動は定着しており、地域における介護予防や住民同士の交流の場として効果が認められる。	今後は、あさごいきいき百歳体操、ミニデイ、元気アップいこいの場事業等の連携をさらに強化し、参加しやすい雰囲気づくりや情報発信に重点を置く。生活支援コーディネーターによる伴走支援や個別アプローチにより、住民一人ひとりの「できること」を活かし、役割を持てる居場所づくりを進めることで、活動の定着と拡大を図る。また、活動の担い手やボランティアへの支援を充実させ、地域に根ざした介護予防の仕組みを強化する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

1 地域の人・集いの場などをつなげる機会をつくる ⑩地域で孤立しがちな方への声かけ ⑪孤立しがちな方が相談しやすい関係づくり 2 多様なつながりのかたちをつくる ⑫事業・行事等に参加しなくても地域の中でつながりを持つ

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	2カ所のひきこもりの居場所を設置し、対象者の把握や寄り添いながら問題解決への支援を行っている。外出するハードルが高い者へのオンライン居場所も設置している。R7から重層的支援体制整備事業アウトリーチ等支援員を配置し、地域に潜在する社会的孤立にある者を早期に把握し早期に必要な支援につなぐ体制を整備した。	ひきこもりや生活困窮者、8050問題など、要支援者の課題が多様化する中で、要支援者を早期に把握するアウトリーチの体制を整備できた。また、課題の複合・複雑化しており、多分野と連携し社会参加支援をおこなう体制づくりに努めた。	ひきこもりに対する理解推進と支援力向上のため各支援団へ研修の実施し、あわせて特色を活かした居場所づくりを進める。 要支援者の問題が複雑化する前に早期に把握し、必要な支援につなぎ地域につなぎ戻す支援体制の構築を進める。
高年福祉課	地域での高齢者の集いの場や健康づくり活動のため老人クラブの活動に対する補助を実施し、支援を行った。	クラブ数、会員数ともに前年度に比べ大きく減少している。（クラブ数58→50 会員数2,003人→1,717人）老人クラブ数や会員数の減少には、就労年齢の高齢化に加え、ライフスタイルの変化など、様々な問題が影響していると考えられる。老人クラブは高齢者が地域社会とのつながりを維持する上で極めて重要役割を担っている。	老人クラブは高齢者が地域社会とのつながりを維持する上で極めて重要な位置づけであることを踏まえ、引き続き、活動に対する補助を実施するとともに、クラブの数、会員数の減少に歯止めをかけるべく、関係機関と連携し、今後の老人クラブの在り方、方向性等について合意形成を図る必要がある。
包括支援センター	地域で孤立しがちな高齢者を支えるため、地域包括支援センターでは「一人ひとりを支える向こう三軒両隣会議」を高年齢相談センターに委託し、令和7年度は56回開催した。地域住民や関係機関と連携し、日常の声かけや見守り、相談しやすい関係づくりに取り組んだ。また、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターや地域自治協議会と連携し、地域活動への参加が難しい高齢者への支援や居場所づくりを推進した。	令和7年度末の実績では、ミニデイは79グループ、あさごいきいき百歳体操は91グループで実施された。目標としていたグループ数に一部未達があり、参加者や運営者の高齢化、担い手不足、活動継続に伴う負担感などが要因となった。一方で、既存活動は地域に定着しており、住民同士のつながりや介護予防の場として効果が見られる。	今後も、向こう三軒両隣会議を活用し、地域で孤立しがちな人を早期に把握して必要な支援につなげる。あさごいきいき百歳体操やミニデイ、元気アップいこいの場事業との連携を強化し、参加しやすい雰囲気づくりや情報発信を推進する。生活支援コーディネーターによる伴走支援や個別アプローチを通じ、住民一人ひとりの「できること」を活かした居場所づくりを進め、地域で安心して暮らし続けられる環境を整備する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する

■目標に向けたアクション体系

1 在住外国人の困りごとを把握する

└ ①在住外国人との対話の場づくり

2 企業や地域住民の困りごとを把握する

└ ②企業や地域住民との対話の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	・あさご未来会議での多文化共生をテーマにした対話 ・多文化共生の出前講座の実施 日本語教室の開催	外国人市民人の増加に伴い、日本語教室のニーズが増加している。 ボランティア支援者等の人材確保・育成が必要になっている	外国人市民のニーズを把握し民間団体による日本語教室と連携し、様々な方法で学習機会を提供できる取組を進める必要がある。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

2 まちの情報を在住外国人に伝える

■目標に向けたアクション体系

1 多言語対応による情報発信を行う

- └ ③日常の暮らしに必要な情報の多言語化
- └ ④災害時の対応方法や防災情報などの多言語化

2 在住外国人とのコミュニケーションを促進する

- └ ⑤日本語教室の開催
- └ ⑥在住外国人が参加できるイベントの開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	・朝来市生活支援ガイドの多言語化 ・防災安全課に協力依頼し、日本語教室生を対象にした災害対応などに係る出前講座を実施	外国人市民人の増加に伴い、日本語教室のニーズが増加している。 ボランティア支援者等の人材確保・育成が必要になっている	あさご日本語教室等を通じて、外国人市民と地域との交流の場づくりを進める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

3 在住外国人と地域の人とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

1 互いの文化を理解する

Ｌ ⑦在住外国人が日本文化を学ぶ場づくり

Ｌ ⑧外国の文化を学ぶ場づくり

2 居住地でのつながる場をつくる

Ｌ ⑨企業と連携による在住外国人の地域行事への参加促進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	・日本語教室生と地域との交流 ・兵庫労働局と共同して外国人セミナーの開催 ・国際交流員による広報へのコラム掲載やフランス語文化講座の開催 ・フランス・バルビゾン村との交流（高校生の派遣・受入）	・日本語教室などにより、様々な交流が深まっている。	フランス・バルビゾン村との交流、中学生の国際交流（アメリカ・ニューバーグのシャヘイラムバレー中学校）、日本語教室における在住外国人と地域の人交流を促進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

1 健幸づくりへの意識の向上を図る

■目標に向けたアクション体系

1 健幸づくりに対する普及啓発を推進する

- └ ①地域・学校・職場での健康教室の開催
- └ ②健幸づくりポイント事業を活用した啓発の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり 推進課	①市医師会、歯科医師会及び地域自治協議会と連携し、健康教室や講座を行った。働く世代への健康づくりの支援として、「ストレス・疲労度測定」を2事業所で、「運動教室」を1事業所で実施した。測定結果の指導時には、こころの健康を含む健康づくりのリーフレットの配布を行った。 ②健幸づくりカレンダーによるポイントの付与及び寄附交換を実施した。さらに、令和8年2月からスマートフォン向けアプリ「あさGO!健幸アプリ」を導入した。	①地域や事業所での健康教室の実施により、生活習慣の見直し等健康づくりを意識する機会となっている。今後も様々な機会において、健康づくりについて周知していく必要がある。 ②健幸づくりポイントの寄附・交換申請者数は増加傾向にあるものの、申請者が高齢者層に偏っている。	①健康づくりへの意識向上・取り組みにつながるような内容・方法を検討し、地域や学校、市内事業所と連携して教室を実施する。 ②健幸アプリの活用により、幅広い年代が参加しやすい仕組みづくりを進める。また、操作相談会等による登録・利用支援を継続するとともに、広報紙、ホームページ、公式SNS、学校、企業、地域自治協議会等を通じた周知を行い、健幸アプリの利用促進と定着を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な主体による健康増進の取組を推進する ③家庭・地域・職場での健康づくり活動の推進 ④子どもから大人までの食育の推進 ⑤ウォーキングなど地域での運動習慣づくりの推進 ⑥定期的な健診（検診）受診の推進 ⑦医療費分析による効果的な疾病予防活動の推進	
2 家庭・地域での介護予防の取組を推進する ⑧あさごいきいき百歳体操等による地域での介護予防の推進 ⑨地域ミニデイの開催等による高齢者のお出かけの機会の創出	

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり推進課	③医師会・歯科医師会等と連携し、健康教室・健康づくり講演会を実施した。 ④公式SNS等を積極的に活用し、幅広く情報発信を行った。また、他課連携やいずみ会の活用により、切れ目のない食育推進を行った。 ⑤ウォーキング用ポールを活用したウォーキングの基本を学ぶ講座を複数回開催し、技術の定着を図った。マップ化している健幸ウォーキングコースについて紹介動画を1コース作成し、CATVで放映する準備を整えた。 ⑥がん検診の受診率向上のため市民課と共同で国保加入者の胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん検診を無料化した。身近な会場で人間ドック並みの項目が受診できる体制を確保した。 ⑦健幸づくり推進協議会において健診や医療費分析の結果から見た効果的な対策を協議し、各関係部署や関係機関と協働した事業に活かしている。	③健康教室の対象者の見直し、教室のオンライン申込の導入、周知方法の工夫により、参加者の増加につながった。 ④他課連携、いずみ会の活用により、幅広い年代、地域への食育推進につながった。情報発信では、事業評価が行いにくい面がある。 ⑤マップ化で生きている7コースのうち5コースが映像化できたが、追加と既存の映像の活用により広く市民に知らせていく必要がある。 ⑥がん検診受診率はおおむね横ばいであるが、国保加入者の受診状況は経過を見る必要がある。	③市民が参加しやすい内容や体制を検討し、参加者増を目指す。また地域や学校・職場とも連携し、検討していく。 ④他課連携として庁内栄養士での協議を継続するとともに、いずみ会活動支援を充実させ、幅広い年代、地域への食育を推進する。情報発信では、家庭や地域での実践につながる内容の工夫・検討を行う。 ⑤ノルディックウォーキングの基礎講座を継続開催し、健康効果が得られる適切な使い方ができる市民を増加させる。 ウォーキングコースはあさ『GO！健幸アプリ』内のウォーキングで活用しており、動画での紹介ができるなど更なる活用ができるよう調整していく。 ⑥受診率向上に向け、受診勧奨と申し込みやすい環境整備、費用助成などを継続検討する。 ⑦健幸づくり推進協議会だけではなく、庁内連絡会議においても協議を行い、連携した事業実施ができるよう検討していく。
高年福祉課	介護予防の推進を目的として「元気アップいきいの場事業」を実施し、9自治協で事業を継続実施した。 また、未実施の地域自治協議会に対しては個別訪問により事業趣旨や内容を説明するとともに、事務局長会議等において、実施地域の取組事例の共有や新たな取組内容の提案を行い、事業開始に向けた働きかけを行った。	令和7年度は、11地域自治協議会のうち9地域自治協議会での実施にとどまり、全地域での実施には至らなかった。 一方で、未実施地域への働きかけにより、令和8年度から全地域で事業開始の見込みとなったことから、KPI達成に向けて一定の進捗があった。 今後は、全地域での実施を確実にし、活動内容や参加者の固定化を防ぐ取組の充実が必要である。	令和8年度から全ての地域自治協議会で事業開始となるため、関係機関と連携し、各地域が主体的・継続的に運営できるよう、事例共有や課題への助言等の支援を行う。 また、活動内容や参加者の固定化を防ぎ、新たな参加者の開拓につなげるため、ゲームの体験会等を実施し、柔軟な事業展開が可能であることを周知する。
包括支援センター	介護予防の推進を目的として、「つどい場づくり事業」を展開。通所系サービスの職員が地域に出向き、出前講座を実施する取組を2地区で行った。また、社会福祉協議会への委託事業「ふれあい講師派遣」では、年間263回の講師派遣を実施し、うち13回は栄養・認知症・フレイル等の専門的な健康講話を地域で提供した。いずれも、いきいき百歳体操や、ミニデイと連携を保ちながらその活動を支援した。	令和7年度末の実績では、ミニデイは79グループ、あさごいきいき百歳体操は91グループで実施された。目標としていたグループ数に一部未達があり、参加者や運営者の高齢化、担い手不足、活動継続に伴う負担感などが要因となった。一方で、既存の活動は地域に定着しており、住民同士のつながりや介護予防の場として一定の成果が認められる。	今後は、あさごいきいき百歳体操やミニデイ、元気アップいきいの場事業等との連携をさらに強化し、参加しやすい雰囲気づくりや情報発信を推進する。生活支援コーディネーターによる伴走支援や個別アプローチを通じて、住民一人ひとりの「できること」を活かした居場所づくりを進めることで、活動の定着と拡大を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する

- └ ①多様な主体がつながる場づくり
- └ ②地域自治協議会相互の連携
- └ ③地域と学校の連携
- └ ④地域と企業の連携
- └ ⑤企業と行政の連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	市内11地域自治協議会の連絡会議、3市連携事業による研修会や意見交換会を開催し、地域自治協議会の相互連携や近隣市との連携を促進した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	今後も多様な主体が参加できる場を提供するための支援を継続するとともに、地域コミュニティ活動の活性化に向け、地域自治協議会同士が連携できるように支援を継続する。
学校教育課	各学校に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる取組ができた。令和6年度からは各学校運営協議会委員による情報交換会を開催し、学校運営協議会の取組の充実・発展を図ることができた。	各学校で学校運営協議会を開催し、保護者や地域住民が学校運営等に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる取組ができた。	今後も各学校運営協議会委員による情報交換会を開催し、学校運営協議会の取組の充実・発展を図る。また、児童生徒の意見が反映される機会を作る。 学校運営協議会の活動についてホームページにより周知し、地域との協働による学校づくりに取り組んでいく。
経済振興課	④事業所周辺のごみ拾い等、自発的な環境美化への取組み。 ⑤多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会やしごとゼミ、合同企業説明会に参加している。	④事業所周辺のごみ拾い等、企業の社会的責任（CSR）に市内事業所が取り組んでいる。 ⑤多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会やしごとゼミ、合同企業説明会に多数の事業所が参加している。	④市民社会の一員として、企業にも社会貢献活動に協力いただくよう、取組みを進める。 ⑤女性活躍推進を市全体の取組みと捉え、市内事業者にも参加を呼びかける。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 広域的なプロジェクト実施のための関係性を構築する

- └ ⑥観光・交通等施策分野の連携
- └ ⑦但馬地域・福知山市・丹波市など生活圏域の連携

2 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する

- └ ⑧大学・専門職大学等との連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	但馬地域では豊岡市を中心市とした第3次但馬定住自立圏共生ビジョンを策定している。 また、隣接する福知山市・丹波市と連携し、共通する地域課題の解決に向けた取組を進めるとともに、交付金の採択に向けて3市連携を進めている。 また、福知山公立大学、芸術文化観光専門職大学と連携し、人材育成事業等に取り組んでいる。	それぞれの連携の特徴を活かしながら、連携を行うことで、効果的かつ効率的な事業推進が展開できている。 採択を受けている交付金事業については、より効果的な活用となるよう、計画的な事業推進が必要である。	それぞれの特徴を活かし、但馬定住自立圏や隣接する福知山市・丹波市との連携、大学連携等を進める。 採択を受けている交付金事業については、3市連携の方向性をもとに、計画的に事業計画をたて、事業を推進する。 また、新たな行政課題等の解決に向けては、広域連携することで効果的かつ効率的な事業があれば、適宜関係団体と調整を図る。
観光交流課	山城サミット連絡協議会、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会、HYOGO Medioフィルムコミッション、北近畿広域観光連盟など広域連携での観光推進を図った。 また芸術文化観光専門職大学との連携を進め、教員との連携事業や実習の受入れ、ゼミ生との交流を通じ、課題解決と観光振興に向けて取り組んだ。	左記の団体をはじめとした各種関連団体と連携したイベント実施等、観光施策を展開した。	引き続き、左記の団体をはじめとした広域を含めた各種関連団体と連携した観光施策を展開し、多言語での情報発信や、ユニバーサルツーリズムに必要な情報発信等の観光誘客に取り組む。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する

■目標に向けたアクション体系

1 公共交通の利用を促進する

- └ ①地域・交通事業者と連携した利用促進に向けた取組の推進
- └ ②バス待ち環境の整備

2 公共交通への理解を深める

- └ ③地域・学校等と連携した学びの場づくり

3 公共交通事業者の担い手を確保する

- └ ④学校等と連携した企業の魅力発信等による担い手の確保

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
都市政策課	新たな利用促進施策として、下記の事業を立ち上げ、実施した。 R2年度：播但線団体利用促進事業 R4年度：特急はまかぜ利用促進事業、公共交通通勤利用促進事業 R5年度：駅周辺駐車場利用料金助成事業、特急利用者専用パークアンドライド事業、駅周辺活性化モデル事業	市内を運行する各社の路線バスが運転手不足等により再編整理され、大幅に路線数が削減されたことにより、路線バスの年間利用者数も減少傾向である。一方で、市の運行する交通については、コミュニティバス「アコバス」からデマンド型乗合交通「あさGO」に移行した結果、大幅に利用者数は増加した。	二次交通としてのデマンド型乗合交通「あさGO」と幹線としての路線バスの乗継を促進することで、市民の移動需要に応える交通体系の維持に努める。 具体的には、公共交通ワークショップや、生野高校ゆめいくプロジェクト等の地域・学校と連携した学びの場づくりや、運転手確保の情報発信支援等を継続的に実施する。また、待合環境整備等、バスや「あさGO」の乗継促進策を検討する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

2 新たな移動手段の導入・検討を進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域特性に応じた移動手段の導入・検討を進める

- └ ⑤先進技術導入に向けた研究
- └ ⑥地域特性に応じた効率的な移動手段の導入（実証実験含む）

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
都市政策課	新たな移動手段として、グリーンスローモビリティの実証調査、デマンド型乗合交通「あさGO」の導入を行った。 ○グリーンスローモビリティ R1年度：実証調査 ○あさGO R5年度：実証実験 R6年度：生野エリア、朝来エリアで運行開始 R7年度：和田山・山東エリアで運行開始	実証実験後、本格導入したデマンド型乗合交通「あさGO」は予想を上回る利用者数となり、市民に定着しつつある。	デマンド型乗合交通「あさGO」を幹線となる鉄道や路線バスにつなぐ二次交通として市民に定着するよう改善を図っていく。併せて、その他の効率的な移動手段についても、技術の進捗を注視し、地域特性への適合性等の観点から適宜研究していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする

■目標に向けたアクション体系

1 公共施設の適正配置について理解を深める

- Ｌ ①多様な主体による対話の場づくり

2 公共施設の有効活用に向けた環境をつくる

- Ｌ ②公共施設の利用に係る周知啓発・利便性向上への取組
- Ｌ ③長寿命化に向けた適正な管理の推進
- Ｌ ④利用実態にあわせた施設の機能の見直し

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	これまで総合管理計画、再配置計画、予防保全計画に基づき公共施設の再配置を進めてきた。令和7年度は公共施設マネジメント推進検討委員会を設置し、本市の公共施設に係る課題や目標の共有をしながら、第2期朝来市公共施設等総合管理計画（R8～R17）を策定した。	公共施設再配置計画策定の際にはワークショップ等を開催し、対話の場を設けることができたが、マネジメントの段階では総括課として、公共施設の有効活用に向けた対話等の開催が難しい。一方で施設担当課による個別施設に係る利用者への説明等は行われている。	公共施設再配置計画に基づき、個別施設の再配置に向けて施設担当課による利用者等との調整が進みやすいよう、適宜、公共施設再配置の考え方等についての周知啓発を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

2 公共施設の持続可能な運営を行う

■目標に向けたアクション体系

1 公共施設にかかるコストを削減する
L ⑤利用者の適正な負担（利用料の見直し）
L ⑥公共施設の総量の縮減に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	公共施設の総量の削減にあたっては、公共施設再配置計画に基づき計画的に推進できるよう、施設担当課ヒアリング等を行いながら公共施設マネジメントの取組を推進している。	公共施設の総量縮減については、少しずつではあるが進んでいるものの、少なくとも利用があることや設置の経過、補助金適正化法により取壊し年限に達していない廃止施設があるなど、再配置が進みにくい状況がある。	使用料は令和5年度に見直しを行い、10年間は据え置くこととしているが、社会経済情勢等を把握しながら引き続き使用料の適正化に努める。 公共施設の総量縮減については、施設担当課ヒアリングを充実しながら公共施設マネジメントの取組を推進していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する

■目標に向けたアクション体系

1 朝来市の生物多様性の実態を把握する L ①多様な主体と連携し希少野生植物の生息・生育状況の調査 L ②朝来市レッドデータブックの作成
2 生物多様性の保全に向けた活動を推進する L ③保全・持続可能な利用に向けた生物多様性戦略策定 L ④オオサンショウウオ・コウノトリ保全に向けた活動 L ⑤生物多様性の保全に向けた活動 L ⑥保全に向けた活動団体等の育成 L ⑦生物多様性など自然と共生する農林畜産業の推進
3 生物多様性への理解を深める機会をつくる L ⑧環境教育プログラム等理解を深めるためのプログラムづくり L ⑨地域・学校等での生物多様性について触れる場・学びの場づくり L ⑩生物多様性を学ぶ観光体験プログラムの展開

■取組状況と今後の予定

課名	令和7年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民課	生物多様性地域戦略の策定及びレッドデータブック・ブラックリストの作成に着手し、主に情報収集、現状把握及び課題整理を進めた。	成果指標及び成果達成に向けた活動指標が連動しながら数値が上昇しているため、事業や取組の方向性に誤りはないと料する。	目標値は現状においてクリアしているが、事業実施に工夫を重ねながら、市民の生物多様性や生態系サービスへの意識醸成に取り組んでいく。
文化財課	豊かな自然の象徴であるオオサンショウウオに触れ、学ぶ機会を創出することで、関心と興味を持つ人を増やし、自然環境についての意識を高めるようにしてきた。	ハンザキ研究所が中心となって実施する、オオサンショウウオを学ぶ出前講座や展示によって目標を達成できている。	令和8年度に供用開始の朝来市自然環境保全センターを、オオサンショウウオの調査研究・環境教育・情報発信の拠点として運営し、豊かな自然環境を次世代に継承していく。
農林振興課	多様な生き物を育み、コウノトリも住めるゆたかな文化・地域・環境づくりを目指すための「コウノトリ育む農法」の拡大に取組んだ。生き物が生息しやすい環境づくりのために、冬に水を張る「冬季湛水」、育苗段階からの有機質肥料の使用、無農薬での安全・安心な栽培を推奨している。	コウノトリ育む農法を実施する農業者は増えているが、雑草除去や病害虫対策が課題であるため、目標とする耕作面積には達成できていない。	雑草・病害虫防止のための栽培技術向上や労力削減について、関係機関と協議し課題解決に取り組んでいく。 BLOF理論（高品質・高収量）を推奨し、環境に優しい地域づくりを推進していく。
観光交流課	体験素材集（内、生物多様性を学ぶ等の自然体験プログラム数3）を作成し、観光として自然を体験してもらえるようなコンテンツの開拓を行った。	関係団体との連携を図り、ひょうごフィールドパビリオンの認定プログラム等、コンテンツの開発を行ってきた。	引き続き、生物多様性を学ぶプログラムを観光コンテンツとして展開し、新たなコンテンツの開拓を行う。